

## 子どもたちのこと

一、「ぼくの家 まだ夜？」（S男 五歳児）

### 大橋 利恵子

S男は、からだの大きな、たくましい男の子である。生活面もしっかりしているが、その遊び方は、実に親分肌で、全体に気を配り指示を与え、自分の思うようにまとめていくという具合である。例えば、先日、どんぐりを利用してパチンコ遊びをしていた時、他クラスの子にもやらせてあげようということになり「パチンコ屋さん」が始まった。机を置いて、画用紙の看板をはり、お金をもらう銀行をやってくれる友達に準備を依頼し、もうすべて整ったかと思ったら、当たりが出た時の景品がない。S男はもう遊び出たくて、ウロウロしている仲間達に「まだ、やったらだめだぞ」と言い置いて、教師の所へ飛んでいく。しばらくして、先生を通して景品作りをたのまれた女子の所へ様子を見に行つては「はやくしてくれ。待っているから」と催促をしに行く。やっといくつか作ってもらおうと

「よし、始めるぞ」といよいよ開店。ならんで待っていたお客さんもホッとした様子。

こんな具合に、すべてが彼の指示で動いていくが、決して他人の意見を聞きいれなかったり、横暴なわけではない、このパチンコ屋の時も、玉の入れ方をかえるようにちよつと助言があったら、すぐにその方法を取り入れていた。また、とてもやさしい所があり、小さい組のめんどろをよく見ている。そして事のなり行きで、誰か泣いてしまった時など大きなからだを小さくして、その子の所にかがみこみ心配していたり、あやまっていたりする姿を時々みかけるのである。

そんなS男のあるエピソードを一つ。

ある日の朝、園庭で遊んでいたら、空にまだ月が出ているのに気づいた。さっそく子どもたちに「あそこに出ているのはなんだ」と問いかけた。(問いかけたのはS男の担任である高橋先生で、筆者ではない) 反対側にある「おひさま」は先に確認していたので子どもたちは一瞬、とまどいを感じたようだが、すぐに「お月さまだ」と気づいた。

「え、夜でないのに お月さまがでてる」

「おかしいね、どうしてかな」

「今、夜？」

「上の方だけ夜で、下の方は昼なんじゃないの？」

「ちがう、あちらの方は昼で、あそこは夜なんだ」と太陽のある方を指さしながら他の子が言うのを聞いていたS男は

「え、じゃ、ぼくの家の方はまだ夜なのか？」と真剣な表情で問いかけた。

月が出ている方はまだ夜で、太陽の出ている方が昼だという子どもの発想も楽しくて思わず笑ってしまうけれど、あのしつかり者のS男が、「ぼくの家は夜なの？」とまじめに聞いていたと知った時、何ともおかしくてたまらず、つい大笑いをしてしまった。S男なら「はかだな、そんなはずないじゃないか」と言いそうだと私は思いこんでいた。でも、逆に、S男はそれを信じた。あのたくましいS男にだって、まだこんなかわいい発想が残っている。そう思うとうれしい。そして大切にしたい。やっぱり、子どもっていいな！とあらためて感じずにはいられなかった。

さて、12回にわたり、いろいろな子どもたちのことについて、つまらない文章を連ねさせていただきました。その一つ一つ、やはり自分自身へのいましめになったような気がします。保育はやはり、保育者次第なのでしょうか。そう考えるとつらくなりますが、「子どもと私との間に生まれるもの」と考えると楽しくなってきます。また、きつと子どもたちが私に何かプレゼントしてくれるでしょう。それがたくさんあったら、またこの紙面をお借りしたいと思っています。

(岐阜北幼稚園)